別れなさい人生まだ長い

定年間近の夫が離婚の申し出

Q 結婚して二十五年。夫は五十五歳、Q関係の大企業に二十年勤めており、来年が定年です。子供はありません。だから私は結婚後、しばらくたって今の生命保険会社の外交員として十年近く勤めています。これまで円満な家庭だったのですが、先月のこと、夫が突然「離婚を前提に別居したい」「君は離婚しても働いているから生活に心配はないはず」「二十五年間も結婚した間違いだった」と言い出し、別居のための家までさがしてきたようです。最近の新聞報道だと、熟年夫婦の離婚が急増、愛知県の場合、六年前の約二倍だとか。それも妻が一方的に言い出すケースが多いのですが、私の場合はそうでないだけに、それも離婚の理由が思い当たりません。よきアドバイスをお願いします。

(名古屋市　保険外交員　53歳)

イラスト・所　ゆきよし

A 慎重にお祈りしておきます。占いには人それぞれ相手任せなどの問題があります。これが最初のお断りです。

ご本人が写真がほしいということですが、これだけの問題をもっていて、さて、私の意見は、結論を先に言ってしまいます と、別れなさい。とにかく別れることです。その理由をこれから説明します。

あなたが指摘されるように、昨今の離婚事情は安易に、ちょっと思い出すケースが増えているようです。私のもとに相談にみえられるのは、ほとんどが女性で、離婚すべきかどうかの悩みが多いことから自然に離婚を望む声に言わせると「きっと夫には、私がだれかいること。その理由をこれからこういう気持だということを考えたこともないはずです」とおっしゃいます。

今回のケースは、まるで逆。ご主人が離婚を口にするようです。理由はわからない。それとも気づかないほどのか。

ご主人が突然、「定年後に離婚を」と言い出すケースが多いようですが、定年後に離婚を望む妻の声は、ほとんどありません。定年後に離婚を望む妻の声は、ほとんどありません。

だと十三歳、人生、やり直すには十分お若い。別れたがっている男に、無理やりくっついているよりも、慰謝料をたっぷり分捕って、人生存分に楽しんだ方がいい。

まず、別居すること。

やっぱり二人ご一緒にいたいと気づいたら、また元のさやに戻ればいい。こんな結論が出たら、またお祈りを下さい。その時は、せめて定年目前だけでも書き添えて下さい。(「占いの玉手箱」社長)

【お願い】日ごろの生活での悩みごとをお寄せ下さい。回答者は真鍋ゆき(タレント)竹村亜希子(易学者)高田正(CBC論説委員)土屋誠(名古屋東栄クリニック院長)早川律子(名大分院皮膚科長)の5氏です。質問は簡潔に200字程度。住所、氏名、年齢、職業を明記の上、〒460-11名古屋市中区三の丸1ノ6ノ1、中日スポーツ「ひらめきQ&A」係へ。

ひらめき回答

データ不足、占いはできません

竹村亜希子

いきいき倶楽部

毎週水曜日掲載

なごやコンフィデンス

ドラゴンズの宇野選手の「ヘディング人生」以来、ベストセラー「1リットルの涙」や名古屋出身の落語家・円丈師の「雛道」まで名古屋発行の出版物が人気になっている。こうした単行本だけではなく、月刊雑誌の分野についても昨年あたりから名古屋地方は全国から注目されている。

注目集める名古屋の出版

ともに一年以上お付いていることから、名古屋にも雑誌文化が根付いてきたということもしれない。

イドジャーナル

都市景観

天満緑道水の小径＝千種区茶屋が坂～赤坂(60年度名古屋市都市景観賞)
カメラ・道家　正幸

おくやま談春

能登・輪島の朝市で商う女性

天然ワビ一個十五百円、大きなサザエ一個百円——これは五月・能登半島の外海に面した輪島の朝市での売り値です。名古屋市内の魚屋さんなら、この倍の値段はするでしょう。

初めて訪れた輪島の朝市ですが、なんと千二百年の伝統と歴史があるのだそうです。

〝風土病から守ってあげたい〟

ところで、朝市の活気のそこいて気がついたのですが、商いをしているのは、ほとんどが女性なんです。「ねえちゃん、買ってけ、この魚。さっさ と買うてけ」と威勢のいい声をかけるのも女性ばかり。

なぜ威勢のいい声をかけるのも女性ばかりなのか。

実は、輪島の朝市では、ほとんどの女性が、ある風土病にかかっているのです。

その病気とは、腰痛。

輪島の朝市は、地元・輪島の人たちが、魚や野菜、自由に動かすことができなくなる病気です。

腰痛に悩まされている人たちが